

『生きる』

島根県

隠岐の島町立都万中学校 三年

安部 七菜

「命の大切さを学ぶ教室」を私は初めて受けました。この教室を受けるまで江角さんが教室などの活動をしていることも知らなかったし、全国でこれだけたくさんの方が事故や犯罪などで理不尽に亡くなっていることも初めて知りました。「命が大切」ということは、今まで知っていたけど、人はいつ死ぬか、命がつかえるかは誰にもわからないということは今回の教室で体感しました。もしかすると、明日自分はこの世にいないかもしれない。自分の周りの人だって、明日も元気に生きているかなんてわかりません。今を生きるためにも、シートベルトやヘルメットの着用が義務づけられたりしました。あまり深く考えたこともなかったり、ヘルメットの着用が義務づけられたりしました。あと深く考えたこともなかったけど、事故が多いためルールが変わったのではないかと、これからの犠牲者を増やさないため義務づけられたのではないかと、とても深く考えることができました。それぐらい各々の意識や行動が大切なのだと感じました。

全国で理不尽にたくさんの方が亡くなっている一方で、加害者もたくさんいるということも知ることができました。「加害者は被害者の命だけでなく、その後に続く命もうばっている」という江角さんの言葉が心に残っています。事故や犯罪がたくさん起こっているこの世の中で、その数と同じ数の命、またはそれ以上の数の命がうばわれているのだと気づきました。被害者はこれからの夢や、自分が考えていたこれからの人生をうばわれるのです。江角さんが「夢をかなえるためには、最低限なにが必要だと思う？」という質問をされたとき、私の頭の中では夢をもつこと、あきらめない心などが頭に浮かびました。でも江角さんがおっしゃったのは「生きていること」でした。そう言われたとき、自分は生きていることが当たり前だと思っていることに気がつきました。そして、息をすること、話すこと、勉強すること、運動すること、誰かとけんかをする、その全てが普段の当たり前が「生きているからこそできる」のだと気づかされました。今生きている限り、人はいつ加害者になるか被害者になるかわかりません。でも命は尊くて大切なものだと、このことを江角さんと何百人もの被害者の方のおかげで体感することができました。私はこれからも夢をもつて一日一日生きていきたいです。本当にありがとうございました。